

『講左衛門さん、中村鍊吉常明さんの子孫はどうなったでまっすん。気になって仕方ないでまっすん。』
『鍊吉の息子が渡辺誠であったことは前回話したな。誠も結婚して息子が生まれたんじゃよ。その息子の名前が、亮三というんじゃ。明治 42 年 10 月 2 日、23 歳という若さで死んでしまったんじゃよ。お墓はベニヤの先祖代々の墓地の左側にあるんじゃ。父親の誠は、明治 34 年 5 月 14 日に亡くなっているんじゃ。東円寺の過去帳には戒名は残っておるんじゃが、お墓は何処にあるのかわからないんじゃ。』
『ということは、子孫は絶えてしまったでまっすん？誰が鍊吉さんの話を知っていたでまっすん？』
『亮三には女の兄妹がいたんじゃよ。その子に婿を取って渡辺家を継いだんじゃ。子供は女子が三人いたそうじゃ。けれども、婿は働き者ではなかったようじゃ。渡辺家は、長女がやはり婿を取って跡を継いだんじゃが、生活が苦しくて忍野村を出てしまったんじゃ。屋号を「げっせい」と言ったそうじゃ。その長女は、鳴沢村に住んでいたんじゃが、一昨年 93 歳で他界してしまったんじゃ。幼い頃から苦労続きたったが、鍊吉の子孫であることを誇りに思っていたんじゃな。鍊吉が東円寺の天井の絵を描いたことや、自分の生い立ちについて、孫たちに語り継いでいたんじゃ。しかし、不思議なことがあってな、曾祖父である中村鍊吉常明という名を知らなかったんじゃよ。曾祖父の事を、「りくどうさん、りくどうさん」と言っていたんじゃ。「りくどう」と、「中村鍊吉常明」では全く別人じゃろ。わしは訳が分からなかったんじゃが、ある日、鍊吉の供養碑が現在の東円寺住職の目に飛び込んできたんじゃ。その戒名に六僮(りくどう)という名があったことで、話のつじつまがあったんじゃ。鍊吉のひ孫の話では、京都に住む鍊吉の親戚が、家系図を持って誠の家に訪ねて来たそうじゃ。本来ならば誠は、中村家の直系じゃ。けれども、籍を入れる前に鍊吉は死んでしまった。父親の籍に入れなかった誠を不憫に思ったのであろう…』
『ひどい話でまっすん。その家系図は、現在もひ孫さんの家にあるでまっすん？』
『残念ながら、次女に持って行かれてしまったそうじゃ。その次女も、他界してしまっているから見つかることは難しいのう。けれども、供養碑に「山城八幡大谷」という地名が刻まれておったんじゃ。時間を作って、中村家を探す旅をしようと思っているんじゃよ。また、報告できるといいんじゃが…』



『おいらも、旅について行くでまっすん。すべてが、ドラマを見ているような話でまっすん。次回はどんな話をしてくれるでまっすん？』
『9 月 19 日・20 日の諏訪明神大祭は天候に恵まれて無事に終わってホッとしたんじゃが、神様に奉納する神饌(しんせん)について話をしようと思っているんじゃ。明治以前の神仏混淆時代を色濃く残す大祭なんじゃ。奉納している魚はクニマッスンとも深い縁のある話なんじゃよ。』
『ドキドキ、ワクワクするでまっすん。とても楽しみでまっすん。』



クニマッスン
出生地 忍野村
山梨県水産技術センター

ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは富士山案内責任者)

『講左衛門通信』は、第 2・第 4 日曜日に発行予定